

動き出すかク ril オイル 企業動向 甲陽ケミカル

2012 年 12 月 6 日付号健康産業流通新聞

グルコサミン供給最大手の甲陽ケミカルは今年 5 月、日本国内ク ril オイル原料市場に参入した。

2007 年からク ril オイルを取り扱っていた一方、事業展開は最終製品の OEM 供給のみにとどまっていた。新たにノルウェーの新興ク ril オイルメーカー、オリンピックシーフードと直接提携し、同社が製造するク ril オイル原料のブランド「リムフロスト・サブライム」を輸入。その上で甲陽ケミカルの境港自社工場で品質管理・保証を行い、「KOYO KRILL EX」のブランド名で日本国内にク ril オイル独自の新市場の開拓を進めている。

オリンピック社も今年 5 月から本格供給をスタートさせたばかり。同社は、ノルウェーで漁業および海洋運輸受託事業を展開している水産大手会社のグループ企業。自社保有の南極オキアミ漁獲専用船「ジュベール」を使い、アーカー・バイオマリンと同様、南極オキアミの漁獲から加工までの一貫製造管理体制を整えている。

甲陽ケミカルでは「KOYO KRILL EX」の日本市場開拓に当たり、国内のサプリメント原料商社のアルファリンク（塩野忠人社長）と販売提携した。両社で販売展開し、3 年以内に年間売上高 5 億円を目指したい考えだ。

両社では、今年 10 月の展示会でク ril オイルを強くアピール。オリンピック社のリサーチディレクターなどを招聘し来日セミナーも行った。それ以降、「引き合いがぐっと伸びている」（甲陽ケミカル）という。

一方、オリンピック社では、初年度販売量 200 トン以上を視野に入れる。「マーケティングはスタートしたばかりだが引き合いは多い。（米国を中心に）需要は非常に増えている」という。欧米での販売に関しては、カナダのバイオリジナル社と提携している。

同社では製品品質に関してかなりの自信をみせている。

同社のオキアミ専用船は原料鮮度にこだわり水揚げしたオキアミをすぐに船上加工できる仕組みを整えているとともに、後発参入の強みを生かし、製造技術改良に徹底的にこだわったという。

同社製品の特長としては、特許製法を含むオキアミ水揚げ後の**迅速な船上加工（酵素分解や低温真空乾燥）**と、その後のニュージーランドの生産拠点で行うク ril オイルでは唯一の「**超臨界抽出法**」によるオイル加工の 2 段階製法がある。こうした製法をとることで、①**褐変や臭いのもととなる酸化副産物が少なく、特徴的な透明な赤色を保持する**②**アスタキサンチンを高含有できる**③**リン脂質やオメガ 3 脂肪酸も天然の状態を維持できる** — などとしている。